

公益財団法人東京都島しょ振興公社

令和6年度第3回理事会議事録

- 1 開催日時 令和6年11月13日（水曜日）午前9時00分～午前9時45分
- 2 開催方法 東京都港区海岸一丁目4番15号島嶼会館2階会議室及び
Microsoft Teamsによるオンライン開催
- 3 出席者 理事総数 6名
出席理事 5名
理事長 渋谷 正昭 理事 村山 将人
理事 前田 弘 理事 山下 奉也
理事 松野 利美

監事総数 3名
出席監事 3名
監事 大沼 弘一 監事 中村 佳一
監事 小野 博史※

※を付した監事については、Microsoft Teamsによりオンライン出席した。

- 4 議長 理事長（代表理事） 渋谷 正昭

- 5 議事の経過の要領及びその結果

理事長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は、理事6名の過半数が出席しており、定款第36条の規定に基づき、理事会の議案に対する決議は成立する旨を告げた。その後、次の報告事項の報告に入った。

- 6 報告事項

- (1) 令和6年度事業報告（中間）について

令和6年度決算（中間）について

事務局長より令和6年度事業報告（中間）について、企画管理課長より令和6年度決算（中間）について、一括して説明がなされた後、次の意見、質疑があった。

（前田理事）まず、地域振興事業の執行率が13.5%となっており、昨年度と比較すると低下している。項目別では、地域振興補助事業は昨年度16.2%であったのが5.4%に、観光振興事業については28.4%であったのが7.4%となっている。執行率が低下したのはなぜなのか。

次に、愛ランドリーグについて、昨年度より執行額が随分と下がっているが、今年度は都内開催だったのでこのような額となったのか。

さらに、ヘリ・コンピューター運航実績では、搭乗率が58.6%となっている。日頃よりヘリの予約がなかなか取れないとの話を聞いているが、この搭乗率というのは、結局40%は乗っていないという考え方でいいのか。

(事務局長) 地域振興事業の執行率が下がっている理由について、項目別で説明する。まず、地域振興補助事業について、地域振興補助事業の執行率は、事業者からの申請件数及び弊社の採択件数に左右される。このため、今年度は昨年度よりも執行率が下がっているものの、執行率は毎年度変動するのが実情である。次に、観光振興事業について、5月に開催した愛らんどフェアの精算が、事業報告書等々との関係でまだ完了しておらず、支払手続も完了していないことが理由である。

愛らんどリーグについても前述の観光振興事業と同様であり、都内開催だから安くなったわけではなく、委託料の支払いが完了していないことが理由である。都内開催と島開催については、基本的には必要な経費は同額であるが、島開催の場合には旅費等が嵩むため、200万から300万円程度多く経費がかかる可能性がある。いずれにしても、観光振興事業及び愛らんどリーグについては、年度末の決算において、正確な数字を報告させていただく。

ヘリ・コンピューター運航実績について、予約率はかなり高いものの、キャンセルをする人が大勢いる状況である。この結果として40%程度の人が搭乗しない状況となっており、9席中4席程は空席となってしまっている。ただ、便によって予約率・搭乗率は異なり、八丈島と青ヶ島間の11便と12便についてはかなり高い搭乗率となっている。

(2) 令和6年度中期実施計画(公社における自律改革)の令和6年度実施状況報告について
企画管理課長より、標記案件について説明がなされた後、次の意見、質疑があった。

(松野理事) 債券の運用について、公社は果実運用型で、ここに収入を依存していることは十分承知している。利率が非常に低くなっている時代なので苦しい状況にあり、利回り1.2%以上の債券への買替えを目標とするのも理解しているが、安全な債券の運用をするという部分だけは十分留意の上、運用を進めてほしい。

(中村監事) 42頁の愛らんどリーグについて、6年度の下期に「サッカー以外での子供たちの交流イベント実施も視野に入れ」という記載があるが、何か腹案は持ち合わせているのか。

(業務課長) 7月の愛らんどリーグ開催後に担当者会議を計3回開催している。その中で各町村へ実施したアンケートにおいて、フットサル大会の継続を望む声が満票の9票を獲得した。このため、来年度と再来年度は、フットサル大会を継続したいと考えているが、各町村にフットサルに代わるスポーツ等の意見を出してもらい、より良いものがあれば、そちらも併せて検討していきたいと考えている。

(渋谷理事長) 「準備を進める」という表現が、何か違うことをやるのが既に決まっているのかのような表現となっているので注意してほしい。

(事務局長) この令和4年度・5年度・6年度の計画は、3年前に作成した計画であり、現在の実態と表現が合っていない部分が多々ある中で、「準備を進める」という表現も余り適切な表現でなかったものと考えている。

(3) 令和6年度第2回公社運営検討委員会の開催結果について
令和6年度第3回公社運営検討委員会の開催結果について
企画管理課長より、標記案件について一括して説明がなされ、これを了承した。

(4) 第7次中期実施計画(素案)について

企画管理課長及び業務課長より、標記案件について説明がなされた後、次の意見、質疑があった。

(山下理事) 漁業農業就業体験について、各島の努力等により非常に成果が上がっているの、引き続き頑張って取り組んでほしい。

また、人材の関係について、各島では本当に職員不足で大変な状況にあり、任期付職員を採用しながら頑張って公社に職員を派遣している。公社としても可能であれば人材確保について検討し、少しでも自治体の負担解消に努めてほしい。

(前田理事) 211頁のヘリ・コンピューター運航支援について、今後の運航は公社以外で実施する計画があるということを聞いたことがあるが、実際はどうか。

(企画管理課長) かつてはそのような計画があったようだが、現在は立ち消えとなっている。

(松野理事) まず、165頁の第7次中期実施計画策定方針について。キーワードである「つなぐ」は非常に良い言葉であると考えている。しかし、「つなぐ」という言葉で考えたときに、伊豆諸島と小笠原諸島の島々を「つなぐ」という相乗効果の部分が少し抜けていると感じている。気持ちの問題ではあるが、公社として、実施したことを横展開していくという大きな業務があると思うので、この「つなぐ」のキーワードに引っ掛けて、それぞれの島々を「つなぐ」というのもどこかに触れてもらえると、より存在意義が高まると思う。

次に、191頁の財務シミュレーションについて。東京都としても、できるだけ支援はしていこうと考えているが、この第7次中期実施計画は令和9年度までを期間としたものになると思うので、色々厳しい状況はあると思うが、令和9年度には赤字を抜けられるような計画として、そこを目標に一緒に知恵を出しながら頑張っていければと考えている。

(事務局長) まず、第7次中期実施計画策定方針について。確かに「つなぐ」のキーワードにおいて、指摘の点が欠けているため、案へ反映したいと考えている。

次に、財務シミュレーションについて。先ほどの指摘のとおり、危ない橋を渡る必要はないと考えている。このため、債券についても、危ない橋を渡らずに適正な形で買換えを行い、公社の支出も削減をした上で、令和9年度の黒字化を目指していきたいと考えている。

(渋谷理事長) 理事長として、この赤字脱却に向けて東京都と個別に相談し、引き続き支援をお願いしていきたいと考えている。

(5) 理事長の職務執行状況について

企画管理課長より、標記案件について説明がなされ、これを了承した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は午前9時45分閉会を宣し、解散した。

上記事項の経過の要領及びその結果を明確にするため、代表理事及び出席監事が記名押印する。

令和 6 年 11 月 13 日

公益財団法人東京都島しょ振興公社

議長 理事長（代表理事） 荒谷正昭

監 事 大沼弘一

監 事 中村 佳一

監 事 小野 博史